

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

平成24年5月号

編 集

発 行 人

武田 隆久

〒102-8414 東京都千代田区一番町13-3

一般社団法人 日本病院会 通信教育課

TEL 03-5215-6647 (受講生専用)

FAX 03-5215-6648 (受講生専用)

URL <http://www.jha-e.com/>

受付時間

9:00~17:00
(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)

発行日

毎月1日

定 価

1部 150円 1カ年1,600円(送料共)

郵便振替

00190-5-396045

名 義

一般社団法人 日本病院会 通信教育部

高齢者施設の理解とご支援も

木村 満

医療法人社団慶成会 青梅慶友病院 院長
東京会場 基礎課程(臨床医学各論V) 講師

受講生の皆様の多くは、いわゆる急性期の患者さんを扱う医療施設に従事していると思います。扱う診療科の違いはあっても、働く病院の環境に大きな違いはないと思われます。斯ういう私も30数年間、急性期病院に勤務しました。中でも循環器系の疾患を専門としたため、救命を目的に集中治療に永年従事してきました。この間、診療録管理室の管理にも関わり、診療記録の内容の充実にも努力してきました。「良い臨床医は良い記録を残す」と米国の高名な内科医 JW ハーストが言っています。病院全体の資質が問われる時代です。診療録管理に携わる皆さんも質向上のためにぜひ力を発揮していただきたいものです。そのためには普段から医師との信頼関係が重要です。疑問があったら真摯に担当医に直接尋ねましょう。

現在、私は高齢者の療養型病床群に分類される病院で仕事をしていますが、仕事の内容が様変わりしました。救命ではなく「死」と向き合う仕事が増えました。最近、終末期医療が話題になっています。癌に対する終末期もあります。高齢社会に突入したわが国で高齢者の最晩年をどう生き、どのように最期を迎えるかが大きな関心事となりました。

国は在宅医療に向けた諸策を謳っていますが、先行き不透明です。人がどのように死を迎えることがよいのかを多角的に議論する時代です。延命治療はしないという選択肢が表の話になってきました。

諸事情で、病院で死を迎える高齢者は決して少なくありません。いわゆる老人病院といえども病院です。法に沿って業務が行われ、死亡診断書も発行します。しかし急性期病院とは異なる事情がいくつかあります。診療に関しては検査の種類も数も少なく、手術をする病院も限られます。他方、老人病院に勤務する診療情報管理士は現状ではまだ希少でしょう。

診療記録が粗末に扱われることはないでしょうが、老人病院といえども記録やその他の情報はきちんと管理される必要があります。さらに大きな違いは退院数に占める死亡退院数です。したがって、発行される死亡診断書の枚数は大学病院を上回るかもしれません。私の勤務する病院では全退院数の9割が死亡退院で、年間約240例を数えます。

死亡診断書は記載マニュアルに沿った書き方を推奨していますが、直接死因に占める「老衰死」の頻度が多くなる点も一般と異なります。老衰の定義が社会学、法医学、病理学などの学者間で多少異なります。厚生労働省では死に至る過程が疾病に拠らない場合としていますが、実際は加齢現象と疾病との境が不明な場合があります。癌を除くと、肺炎、心疾患、脳血管障害が原死因の頻度として多いのは理解できますが、既往にそのような疾患を持っていたとしても、いよいよ衰弱し天寿を全うしたような場合、死因を何とするか迷う場合があります。

ご家族との信頼関係が深まり、満足な最期を看取ることになると、苦痛を伴う「病死」とすることに抵抗感を持つ場合があるのです。そんな時、皆さんが老人病院においても気軽に相談に乗ってくれる診療情報管理士になっていることを期待します。そのためにも広い視野で本課程のカリキュラムに取り組んでいただくことを望みます。

